

スマートピアニスト ユーザーガイド



楽器と接続する	3
スマートピアニストを使う	5
よくあるお問い合わせ (FAQ)	16

スマートピアニストは、ヤマハの電子楽器と接続して使用するスマートデバイス用アプリです。使用可能な楽器と機能は[こちら](#)でご確認ください。

* アプリは予告なくバージョンアップすることがあります。機能を十分にご活用いただくため、最新バージョンのご使用をおすすめします。なお、本書では制作時のバージョンで説明しています。

記載内容に関するお知らせ

- 本書に掲載されているイラストや画面(iPadの横向き表示でのスクリーンショット)は、すべて説明のためのものです。また、接続する楽器の機種によって、表示される機能が異なります。
- iPad、iPadOS は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc.の商標です。
- IOS は米国およびその他の国における Cisco の商標または登録商標であり、ライセンス許諾を受けて使用されています。
- App Store、iCloud Drive は Apple Inc.のサービスマークです。
- Android は Google LLC の商標です。
- Wi-Fi は Wi-Fi Alliance の登録商標です。
- Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。ヤマハ株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。



- MIDI は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

著作権に関するお願い

- ヤマハ株式会社および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータ/楽譜データを利用する場合、次に定める行為の他、ヤマハ株式会社または第三者の著作権、財産権その他の権利または利益を侵害する行為を行ってはなりません。
 - 市販の楽譜データまたは曲データで、別途データ提供元が定める利用規約に違反する行為
 - 楽譜表示画面を含む動画の投稿など、ヤマハ株式会社および第三者の権利物の配信を意図とした行為
- スマートピアニストに内蔵されたコンテンツは、ヤマハ株式会社が著作権を有する、またはヤマハ株式会社が第三者から使用許諾を受けている著作物です。スマートピアニストに内蔵されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、

著作権法等に基づき、許されていません。

※上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVE データ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。

※上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行い、それらを録音や配布することについては、ヤマハ株式会社の許諾は必要ありません。

ソフトウェアおよびユーザーガイドについてのお知らせ

- ・ このソフトウェアおよびユーザーガイドの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- ・ このソフトウェアおよびユーザーガイドの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・ このソフトウェアおよびユーザーガイドを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。

楽器と接続する

スマートピアニストの接続ウィザードを使って、楽器とスマートデバイスを接続します。

ご注意

スマートピアニストに接続すると、楽器の設定は、スマートピアニストでの設定内容に変更されます。接続中は、楽器では演奏以外の操作ができません。スマートピアニストを使って楽器を操作してください。

1. 利用可能なスマートデバイスの機種や OS を確認します。

- iOS/iPadOS: [App Store](#) の情報をご確認ください。
- Android: 「[Smart Pianist Android 版動作確認デバイスリスト](#)」をご確認ください。

2. 「スマートピアニスト接続前の準備」で接続タイプを選び、接続に必要なものを準備します。

3. スマートピアニストをスマートデバイスにインストールします。

4. スマートピアニストを起動します。



NOTE

- ・接続する楽器が Bluetooth MIDI に対応していて、電源がオンになっていると、スマートピアニストにメッセージが表示されます。メッセージに従って操作すると、Bluetooth MIDI による接続が完了します。そのため、以降の操作は不要ですが、電波状況などにより接続ができない場合は、以下の手順に従い、接続ウィザードを使って接続してください。
- ・Bluetooth で接続する場合、Bluetooth オーディオにも対応している楽器は、別途 Bluetooth オーディオでも接続することをおすすめします。接続方法については、楽器の取扱説明書をご確認ください。

- ・Bluetooth MIDI と Bluetooth オーディオで接続した場合でも、オーディオ録音などの一部の機能が使えません。すべての機能を使用するには、Bluetooth 以外の方法で接続してください。

5. スマートピアニストの画面左上にある (メニュー) をタップしてメニューを開きます。



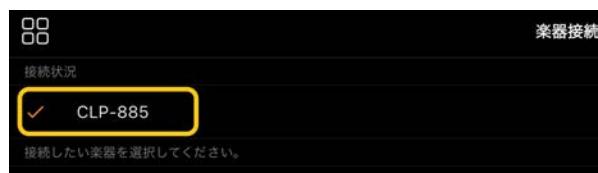
6. [楽器]をタップし、楽器接続画面を開きます。



7. 中央下にある[接続ウィザードを開始する]をタップします。



8. 接続ウィザードに従って操作して、楽器とスマートデバイスを接続します。接続に成功すると、楽器接続画面の「接続状況」に楽器名が表示され、左側にチェックマークが付きます。



9. (メニュー) (メニュー) をタップしてメニューを開

き、スマートピアニストを使ってみましょ
う。接続状況は各画面左上に表示される
 (楽器) の色でも確認できます。(緑:接
続済み、白:未接続)



◆ 接続を解除するには

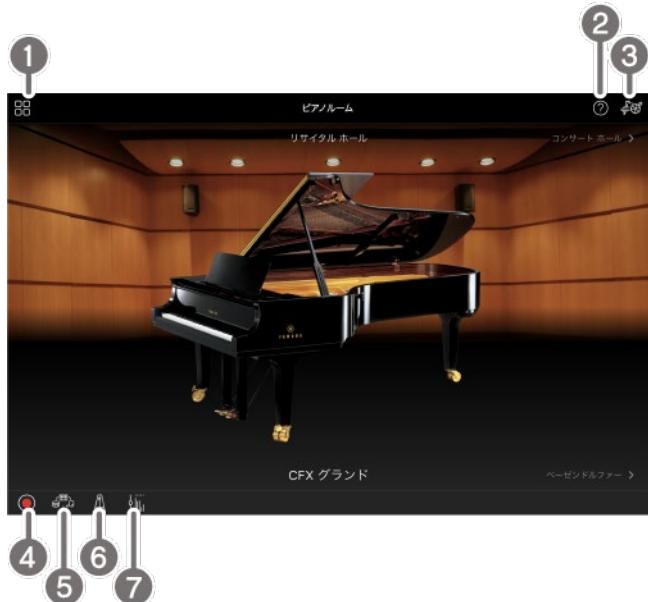
スマートデバイスで、スマートピアニストア
プリを終了させると、楽器との接続が解除さ
れます。接続を解除しても、楽器で設定を変
えたり楽器の電源を切ったりするまでは、ス
マートピアニストでの設定のまま楽器を使う
ことができます。

スマートピアニストを使う

接続した楽器によってスマートピアニストで使える機能が異なり、使える機能のみスマートピアニストの画面に表示されます。楽器ごとに使える機能は、[こちら](#)でご確認ください。この章では、最初に「基本操作」をお読みください。その後、メニューで選んだ各機能の説明をご覧ください。

基本操作

基本の操作ボタン①～⑦について説明します。



① メニュー

各機能への入口です。まずここで使いたい機能を選びます。楽器により表示されるメニューは異なります。メニュー画面を閉じるには、背景(アイコンのないところ)をタップします。



[ピアノルーム \(ピアノ演奏を楽しむ\)](#)



[ソング \(曲を再生/録音する、楽譜を表示する\)](#)



[ボイス \(さまざまな音色で弾く\)](#)



[スタイル \(自動伴奏を付ける\)](#)



[CFX グランド* \(初期設定のピアノボイスに戻す\)](#)



[ユーティリティー \(全体の設定をする\)](#)



[鍵盤/スタイル トラン](#)



[トランスポーズ \(音の高さを半音単位で調節する\)](#)



[お知らせ \(これまでのお知らせを見る\)](#)



[マニュアル \(本書を表示する\)](#)



[楽器 \(楽器と接続する\)](#)



[デモ \(楽器紹介を見る\)](#)



[メトロノーム/リズム \(メトロノームやリズムを鳴らす\)](#)

② ヘルプ

機能の説明が表示されます。黄色くなった箇所をタップして操作方法を確認します。



③ 設定

メニューで選んだ機能に応じて、ピアノルーム設定画面、ボイス設定画面、スタイル設定画面、ソング設定画面が表示されます。各機能に関するさまざまな設定をします。

④ 録音

録音画面を表示します。演奏を録音できます。

⑤ レジストレーションメモリー

選ばれているボイスやスタイルなどの設定をまとめて保存します。また、必要なときにすぐに呼び出せます。



[現在の設定を保存する]をタップして現在の設定を保存します。設定を呼び出すには、保存した設定をリストから選びます。①(情報)をタップすると、そのレジストレーションメモリーに記憶されている内容を確認できます。

⑥ メトロノーム/リズム

メトロノームやリズムをスタート/ストップしたり、メトロノーム/リズムの設定画面を開いたりします。

⑦ 音量バランス

鍵盤演奏、スタイル、ソング、マイクなどパート間の音量バランスを調節します。

ピアノルーム（ピアノ演奏を楽しむ）

お好みのピアノの音で演奏を楽しめます。ピアノや背景のイラストを左右にフリックするとピアノの種類や演奏空間を変更できます。



ピアノルーム設定画面では、音の響き具合やタッチ感度などもお好みの設定にできます。

ボイス（さまざまな音色で弾く）

ピアノのほか弦楽器や管楽器などさまざまなボイス(音色)で鍵盤を演奏できます。ボイスを選ぶには、楽器のイラストをタップします。



1つのボイス(メイン)を鳴らすだけでなく、そこにもう1つのボイス(レイヤー)を重ねることもできます。また、レフトをオンにすれば、左側の鍵域では別のボイスを鳴らせます。

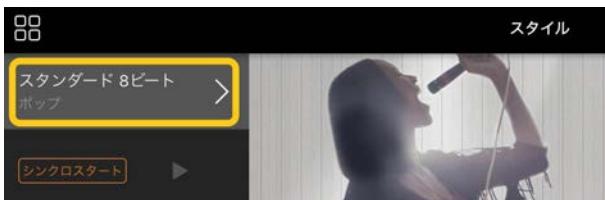
レフトをオンにしたとき、鍵盤を左右に分ける位置(スプリットポイント)は、鍵盤イラスト上の線を左右に動かすることで変更できます。この線をダブルタップすると、初期設定(F#2)

に戻せます。

スタイル (自動伴奏を付ける)

演奏に合わせて自動伴奏(スタイル)を付けられます。1人でも、バンドやオーケストラとの演奏を楽しめます。

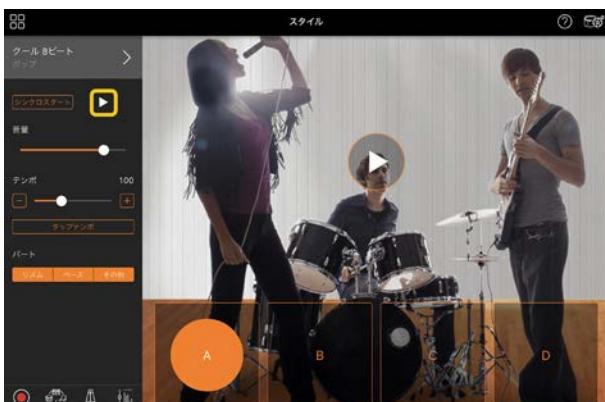
1. スタイル画面の左上、下図で示した位置をタップしてスタイル選択画面を表示させます。



2. スタイル選択画面で、再生するスタイルを選び、右上の[完了]をタップします。



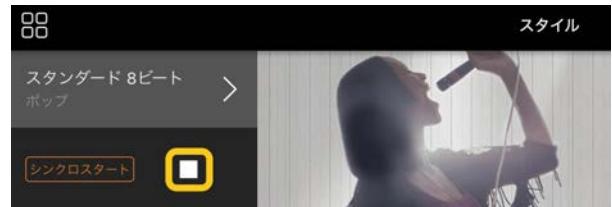
3. スタイル画面に戻ったら、▶ (スタート)をタップして再生をスタートし、鍵盤を弾きます。



[シンクロスタート]をオンにしておくと、鍵盤を弾くと同時にスタイル再生がスタートします。▶ (スタート)をタップする必要はありません。

演奏の盛り上がりに応じて、伴奏パターン(セクション A/B/C/D)を切り替えてみましょう。

4. 演奏が終わったら、□ (ストップ)をタップします。エンディングが鳴りスタイルの再生が停止します。



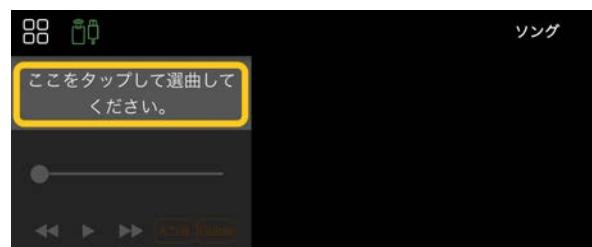
ソング (曲を再生/録音する、楽譜を表示する)

内蔵曲や市販の曲データなどを総称して「ソング」と呼びます。単に再生して聞くだけでなく、ソングを再生しながら練習したり自分の演奏を録音したりできます。また、内蔵や市販の楽譜データ(PDF 形式)を表示して、その曲を再生するなどの便利な機能を使うこともできます。

* ソングの形式にはオーディオと MIDI があります。詳しくは、よくあるお問い合わせ(FAQ)の「[オーディオと MIDI の違いは?](#)」をご覧ください。

再生する

1. ソング画面の左上、下図で示した位置をタップしてソング選択画面を表示させます。



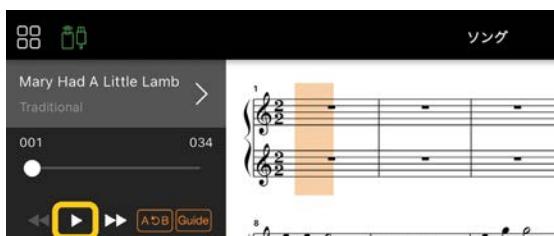
2. ソング選択画面で、カテゴリーを選んでから、再生したいソング名をタップします。



* スマートピアニストで録音した曲は[録音ソング]、スマートデバイス内にあるオーディオ曲は[ミュージックライブラリー]から選べます。

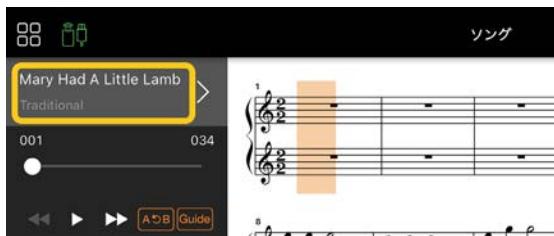
「PDF 楽譜」のカテゴリーから曲を選んだ場合、以降の手順は[「PDF 楽譜を表示して曲を再生する」\(手順3\)](#)をご覧ください。

- ソング画面が表示されたら、▶ (スタート)をタップして再生をスタートします。



ソング画面では、曲の最後まで再生されると自動的に再生が止まります。

- ソング選択画面に戻るには、曲名(下図で示した位置)をタップします。



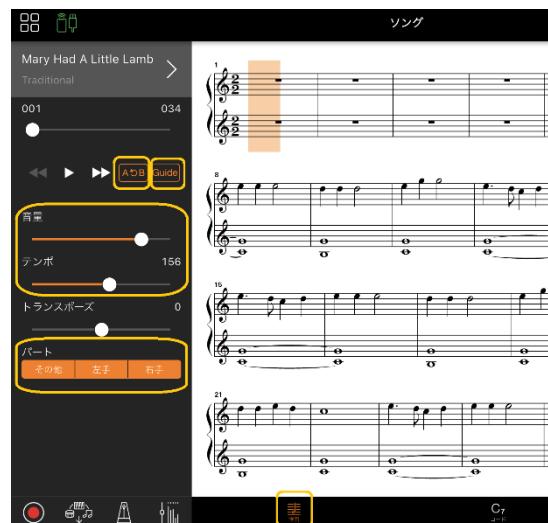
◆ くり返し(連続)再生する

ソング選択画面では、ソング名の右端にある▶ (スタート)でくり返し再生(連続再生)ができます。詳しくは[「ソングをくり返し再生\(連続再生\)するには？」](#)をご覧ください。



練習する

練習に便利な機能を使えます。練習したいソングを選んだら、ソング画面下の[譜面]をタップして譜面を表示させておきます。



* オーディオソングの譜面は、オーディオトゥースコア機能を搭載している楽器のみ表示できます。オーディオソングでは、以下の機能のうち A-B リピートのみ使えます。

◆ 音量/テンポ

スライダーを動かしてソングの音量やテンポを調節します。ダブルタップすると初期値に戻せます。

◆ ガイド

[Guide]

[Guide] (ガイド)をタップしてガイド機能をオンにし、▶ (スタート)をタップすると、正しい鍵盤を弾くまで、ソングの再生が待ってくれるので自分のペースで練習できます。ガイドランプまたはストリームライトを搭載している楽器では、弾く鍵盤の位置をランプで示してくれます。

◆ くり返し再生 (A-B リピート)



1 曲のうち、指定した範囲をくり返し再生します。難しいフレーズを練習するのに便利です。

1. ▶ (スタート)をタップして、ソングの再生をスタートします。

2. くり返しの開始位置(A 点)まで再生されたら、[A-B]をタップしてオンにします。

3. くり返しの終了位置(B 点)にしたいところまで再生されたら、再度[A-B]をタップします。その後、A 点と B 点の範囲がくり返し再生されます。

[A-B]をオフにするとくり返し範囲の指定が解除されます。

また、ソング再生停止中に譜面上をタップしてから[A-B]をタップして、A 点または B 点を設定することもできます。

* ソングの再生位置は、ソング名下にあるスライダーを使っても移動できます。

* MIDI ソング、オーディオソングでは B 点を曲の終わりに設定することはできません。

◆ パートオン/オフ



片手だけ練習したい場合など、練習したいパート(右手/左手/その他)をオフにして再生します。ほかのパートの再生に合わせて、オフにしたパートを弾く練習ができます。

録音する

演奏をオーディオ形式または MIDI 形式で録音し、ソングとして保存できます。録音したデータはスマートデバイスに保存されます。録音データをスマートピアニストから取り出したい場合は、よくあるお問い合わせ(FAQ)

の「[録音した演奏データを取り出すには?](#)」をご覧ください。

* オーディオ録音が可能な楽器でも、Bluetooth で接続している場合は、オーディオ録音はできません。ほかの接続方法に変更するか、MIDI 形式で録音してください。

◆ 新規録音

1. ボイスやスタイルの選択など演奏に必要な設定をします。

2. 基本の画面(ピアノルーム/ボイス/スタイル/ソング)にある (録音)をタップして録音画面を開きます。

* スタイルと一緒に録音する場合はスタイル画面から (録音)をタップしてください。



3. (オーディオ録音可能な楽器のみ) [オーディオ]または[MIDI]を選びます。



4. [新規ソング]をタップします。

* メトロノームを鳴らして録音する場合は (メトロノーム/リズム)をタップしてメトロノームを鳴らします。(メトロノームの音は録音されません。) リズムを録音する場合は (リズム)をタップしてリズムを選びます。その後、メトロノーム/リズム画面を閉じて録音画面に戻ります。

5. (録音)をタップして録音をスタートします。

* メトロノームやリズムを停止するには (停止)をタップします。

6. 演奏が終わったら、 (ストップ)をタッ

まして録音を終ります。

7. [保存]をタップして、録音した演奏をスマートデバイスに保存しましょう。

録音した日時がソング名として表示されますが、ソング名をタップして変更できます。



保存したデータをあとで再生するには、ソング選択画面の[録音ソング]から選びます。

◆ 多重録音(既存のソングにデータを追加)する

録音済みのソングを再生しながら録音することで、データを追加できます。一度に演奏するのが難しい曲でも、パートごとに録音して1つの曲に仕上げることができます。たとえば、右手演奏を先に録音しておき、右手演奏を聞きながら左手演奏を録音したり、スタイル演奏を先に録音しておき、スタイル演奏を聞きながらメロディー演奏を録音したりできます。

* PDF楽譜の表示中は録音済みソングにデータを追加できません。

1. 「新規録音」の手順で、ソングを録音して保存します。MIDI録音の場合は、録音するパートを[録音]にし、録音しないパートを[オフ]にします。録音先となるチャンネル(1~16)も指定します。



この画面は右手の演奏(メインパート)をチャンネル1に録音する例です。

2. ソング選択画面で、録音済みのソングを選びます。
3. 基本の画面(ピアノルーム/ボイス/スタイル/ソング)にある (録音)をタップして録音画面を開き、手順1で保存したソング名が表示されていることを確認します。
4. (MIDI録音の場合のみ)録音するパートを[録音]にし、録音先のチャンネルを指定します。

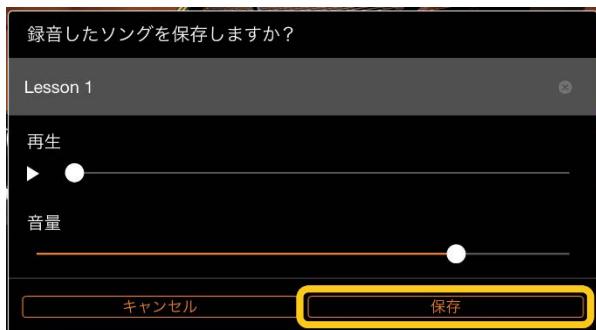


この画面は左手の演奏(メインパート)をチャンネル2に録音する例です。

手順1で録音済みのチャンネル1(右手パート)は、画面下部に表示された楽器イラ

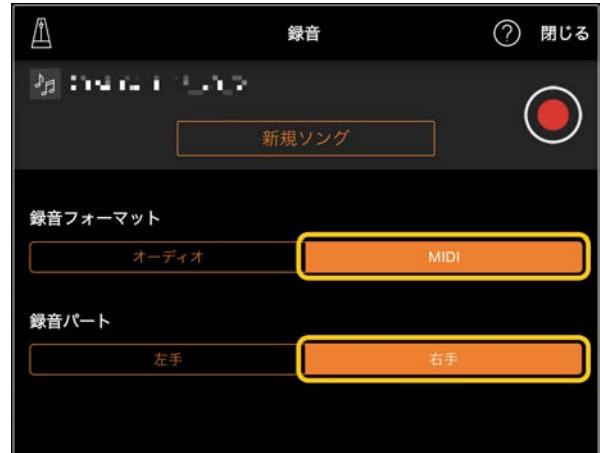
ストによりデータがあることがわかります。録音済みのチャンネルを[録音]にすると、データが上書きされます。

5. (録音)をタップして、録音をスタートします。
6. 演奏が終わったら、画面下部にある (ストップ)をタップして録音を終わります。
7. [保存]をタップして、録音した演奏をスマートデバイスに保存しましょう。
手順 2 で選んだソングとは別のソングとして保存したい場合は、ソング名を変更してから保存します。



- ◆ 右手パートと左手パートを個別に録音する(CLP-800 シリーズ、SCLP-8450、SCLP-8350)
右手パートと左手パートを個別に録音して 1 曲に仕上げることができます。

- * PDF 楽譜を表示中は録音済みソングにデータを追加できません。
1. 「新規録音」の手順で、ソングを録音して保存します。
手順 3 では[MIDI]を選び、[右手]または[左手]のどちらかを選んでください。



この画面は右手の演奏を右手パートに録音する例です。

2. ソング選択画面で、手順 1 で録音したソングを選びます。
3. (録音)をタップして録音画面を開き、手順 1 で保存したソング名が表示されていることを確認します。
4. [MIDI]を選び、手順 1 で録音したパートとは別のパートを録音先として選びます。



この画面は左手の演奏を左手パートに録音する例です。

録音済みのパートの下には、「録音済み」と表示されます。録音済みのパートを録音先として選ぶと、データが上書きされます。

5. (録音)をタップして、録音をスタートします。
6. 演奏が終わったら、画面下部にある (ストップ)をタップして録音を終わります。

(ストップ)をタップして録音を終わります。

7. [保存]をタップして、録音した演奏を保存しましょう。

PDF 楽譜を表示して曲を再生する

内蔵の PDF 楽譜(PDF 形式の楽譜データ)を表示して、その曲を再生するなどの便利な機能を使えます。市販の PDF 楽譜をスマートピアニストに取り込むと、楽譜が自動的に解析され、内蔵の PDF 楽譜と同じように曲の再生などができます。

- * 接続している楽器によっては、市販の PDF 楽譜を取り込んで楽譜を表示しても、曲を再生できない場合があります。楽器ごとに使える機能は、[こちら](#)でご確認ください。
- * 市販の PDF 楽譜とは、PDF 形式のデータとして市販されている楽譜を指します。印刷された楽譜をスキャンしたり、写真に撮ったりして PDF 形式で保存したデータなどは含まれません。
- * 市販の PDF 楽譜を取り込んでも、曲を再生できない場合があります(手順 3 の再生ボタンが表示されません)。また、曲の再生が可能な場合でも、楽譜どおりに再生できない場合があります。
- * 市販の PDF 楽譜から自動で作成された曲データはスマートピアニストから外部へエクスポート(書き出し)できません。

1. (内蔵の PDF 楽譜を表示する場合のみ)ソング画面の左上、下図で示した位置をタップしてソング選択画面を表示させ、「PDF 楽譜」のカテゴリーのソングをタップすると、楽譜が表示されます。



*ソング名下の◆は曲の難易度を表示しています(一部の PDF 楽譜のみ)。

2. (市販の PDF 楽譜を表示する場合のみ)スマートピアニストに PDF 楽譜を取り込みます。

2-1 市販の PDF 楽譜をスマートデバイスまたは[オンラインストレージ](#)に保存します。

2-2 ソング画面の左上、下図で示した位置をタップしてソング選択画面を表示させます。



2-3 ソング選択画面で[インポートソング]を選び、 (Import)をタップします。



2-4 手順 2-1 で PDF 楽譜を保存した場所を選び、取り込みたい PDF 楽譜をタップします。操作方法について

ては、お使いのスマートデバイスのマニュアルをご確認ください。

2-5 確認の画面が表示されたら、[インポート]をタップします。

2-6 インポートされた PDF 楽譜をタップすると、楽譜が表示されます。



3. 画面上部の▶(スタート)をタップして再生をスタートします。



* PDF 楽譜の解析ができなかった場合、▶(スタート)は表示されません。

*関連 FAQ: [インポートした PDF 楽譜の一部が表示されない。](#)

4. ソング選択画面に戻るには、下図で示した位置(曲名またはファイル名)をタップします。



◆ PDF 楽譜の便利な機能

… (表示切替)をタップして表示を切り替え、便利な機能を使ってみましょう。



「[練習する](#)」の「くり返し再生(A-B リピート)」をご覧ください。

テンポ: テンポを変更できます。インポートした PDF 楽譜の曲の場合、DOWN(保存)をタップすると変更したテンポを保存できます。

パート(バックング): オンにして ▶(スタート)をタップすると、曲に合った自動伴奏が再生されます。「バックング」の右下の表示をタップして伴奏のタイプを変更することもできます。

*この機能はインポートした PDF 楽譜のみに使用できます。

パート(その他/左手/右手): 「[練習する](#)」の「パートオン/オフ」をご覧ください。

(メダルチャレンジ):

スマートピアニストがあなたの演奏を金、銀、銅のメダルで評価します。詳しくは「[メダルチャレンジの使い方は?](#)」をご覧ください。

録音ソング一覧: この PDF 楽譜を表示して録音したソングのリストが表示されます。リストから録音ソングを選んで再生もできます。



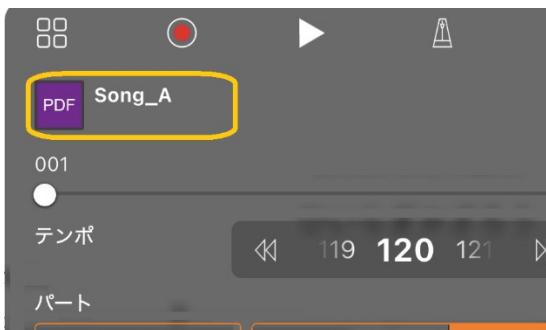
「[練習する](#)」の「ガイド」をご覧ください。

SCROLL

オンにすると、演奏に合わせて PDF 楽譜が自動でスクロールします。PDF 楽譜のハイライトの位置が実際の演奏とずれている場合は、タップしてハイライトの位置を変更します。

*この機能がない楽器では、ペダルに譜めくりの機能を割り当てる便利です。設定は[ユーティリティ]→[ペダル設定](楽器によっては[ソング設定]→[譜面]→[ペダルによる譜めくり])で設定します。

ソング選択画面に戻るには、ソング名(またはファイル名)をタップします。



◆ くり返し再生(連続再生)する

ソング選択画面では、ソング名の右端にある▶(スタート)でくり返し再生(連続再生)ができます。詳しくは「[ソングをくり返し再生\(連続再生\)するには?](#)」をご覧ください。



初期設定のピアノボイスに戻す

メニューには、接続している楽器の初期設定のボイス名([CFX グランド]など)が表示されています。タップすると、ボイスの設定がリセットされ、全鍵域で初期設定のピアノボイスで演奏できるようになります。

ユーティリティー (全体の設定をする)

ユーティリティー画面では、チューニングや鍵盤の設定、ペダルの設定、マイクの設定など、楽器全体に関わる設定をします。



鍵盤/スタイルトランスポーズ (音の高さを半音単位で調節する)

メニューの「鍵盤/スタイルトランスポーズ」の[+][-]をタップすると、鍵盤演奏音とスタイル再生音を半音単位でトランスポーズ(移調)できます。ここで設定は、ユーティリティー画面の「トランスポーズ」の設定と連動します。

お知らせ (これまでのお知らせを見る)

メニューの[お知らせ]をタップすると、これまでに表示された、主なお知らせをもう一度見ることができます。

マニュアル (本書を表示する)

メニューの[マニュアル]をタップすると、本書を表示できます。

楽器（楽器と接続する）

メニューの[楽器]では、スマートピアニストと楽器を接続します。接続中は楽器名が表示されます。詳しくは「[楽器と接続する](#)」をご覧ください。

デモ（楽器紹介を見る）

デモ画面では、接続中の楽器の機能を紹介した動画を視聴します。見たい動画をタップして再生します。

メトロノーム/リズム（メトロノームやリズムを鳴らす）

メニューの[メトロノーム]をタップすると、メトロノーム/リズム画面が表示されます。メトロノームを使ったり、リズムを選んで再生したりできます。また録音時にリズムを録音するかどうかなど、リズムに関する設定もこの画面で行います。

よくあるお問い合わせ (FAQ)

楽器によって使える機能が異なります。また、お使いの楽器に搭載された機能でも、スマートピアニストでは操作できないものもあります。楽器ごとに使える機能は、[こちら](#)でご確認ください。

なお、ウェブサイトでも「よくあるお問い合わせ(Q&A)」を掲載しています。

<https://yamaha.io/faq-jp-piano>

オーディオと MIDI の違いは？

・ オーディオデータ(オーディオソング)

演奏した音や歌そのものを記録したデータです。ボイスレコーダーなどで録音するのと同じくみで録音したものです。たとえば、CD からスマートデバイスに取り込んだ曲などがオーディオソングです。

オーディオ録音では、鍵盤演奏だけでなく、楽器に接続したマイクを通して歌声も一緒に録音したり、楽器に接続したオーディオ機器での再生音も録音したりできます。一般的な CD 音質(44.1 kHz/16-bit)のステレオ WAV または AAC の形式で保存されるので、そのままスマートデバイスなどの音楽プレーヤーで再生できます。

・ MIDI データ(MIDI ソング)

鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜のように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記録され、音そのものは記録されていません。記録された演奏データに基づいて、楽器の音源部が鳴ることで音となります。譜面の表示、パートごとのオン/オフなどができる、演奏の練習に便利です。たとえば、楽器に内蔵の曲などが MIDI ソングで

す。

MIDI 録音では、右手パートやスタイルパートなど各パートを個別に録音できます。録音後にテンポを変更したり、演奏の一部を録音し直したりできます。ほかの電子楽器やコンピューターのソフトウェアを使って編集しやすいデータです。オーディオ録音に比べてデータ容量が小さいのも特長です。

MIDI ソングをオーディオソングに変換するには？

MIDI ソングをオーディオソングに変換するには、MIDI ソングを選んだ状態でオーディオ録音をスタートします。何も演奏せず、ソングが最後まで再生されたらストップして保存します。

楽譜/譜面を表示するには？

スマートピアニストでは以下 3 種類のデータから楽譜/譜面を表示できます。データの種類に合った方法で表示してください。

- ・ 楽譜データ(PDF) : 「[PDF 楽譜を表示して曲を再生する](#)」をご覧ください。
- ・ MIDI ソング(プリセットのソングや MIDI 録音したソングなど) : ソング画面下の[譜面]をタップして譜面を表示します。譜面を表示するパート(チャンネル)の設定が適切でない場合は、「[メロディー以外のパートの譜面を表示させるには？](#)」の手順で設定を変更してください。
- ・ オーディオソング : ソング画面下の[譜面]をタップするとコード譜が表示されます。[オーディオトゥースコア機能](#)を搭載した楽器では、伴奏譜も表示できます。詳しくは「[オーディオトゥースコアの使い方は？](#)」をご覧ください。

インポートした PDF 楽譜の一部が表示されない。

PDF 楽譜をインポートすると、余白が削除されて、より読みやすい状態で表示されます。しかし、まれにスラーなどの必要な部分まで削除されてしまうことがあります。このような場合は、以下の手順でこの機能(コンパクトビュー)をオフにしてください。

1. PDF 楽譜の操作画面右下にあるアイコンをタップしてソング設定画面を開きます。



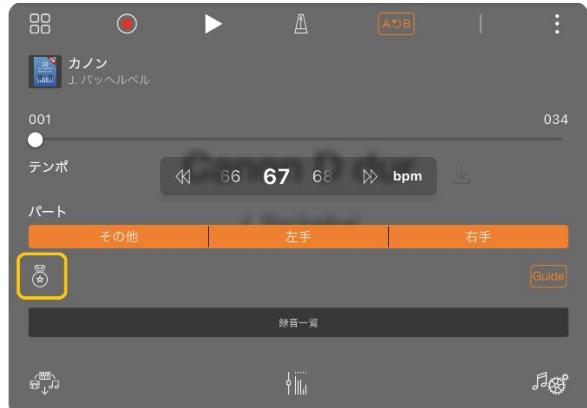
2. ソング設定画面で[譜面]→[コンパクトビュー]をオフにします。



メダルチャレンジの使い方は？

PDF 楽譜を表示して、メダルチャレンジの機能を使うと、スマートピアニストがあなたの演奏を金、銀、銅のメダルで評価します。獲得したメダルはソング選択画面に表示されます。

1. 「PDF 楽譜を表示して曲を再生する」の手順に従って、PDF 楽譜の詳細画面を表示し、 (メダルチャレンジ)をタップします。



2. 表示された画面で[チャレンジする]→[演奏スタート!]を順にタップします。
3. 楽譜が表示されたら演奏します。
4. 演奏が終わったら、画面上部の (ストップ)をタップします。



スマートピアニストがあなたの演奏を評価し、金、銀、銅のメダルを画面に表示します。

ソングをくり返し再生(連続再生)するには？

ソング選択画面では、そのカテゴリーの曲を順番に再生したり、ランダムに再生したり、1曲だけを繰り返し再生したりできます。くり返し再生(連続再生)の方法は、あらかじめソング設定画面で設定します。

1. 「ソング(再生する)」の手順1～2に従ってソング画面を開きます。
2.  (ソング設定)をタップして、ソング設定画面を開きます。

■ PDF 楽譜の場合



■ その他のソングの場合

3. ソング設定画面で、[再生]→[リピート再生]をタップして、くり返し再生の方法を選びます。



全曲リピート: 選択中の曲と同じリスト内の全曲を順番にくり返し再生します。

シャッフル再生: 選択中の曲と同じリスト内の曲をランダム(順不同)にくり返し再生します。

1 曲リピート: 選択中の曲だけをくり返し再生します。

4. 画面右上の[完了]をタップしてソング設定画面に戻り、画面右上の[完了]をタップしてソング画面に戻ります。

5. ソング画面のソング名をタップして、ソング選択画面に戻ります。

■ PDF 楽譜の場合

■ その他のソングの場合

6. ソング名の右の▶ (スタート)をタップして、連続再生をスタートします。

ソング選択画面では、⏸ (一時停止)をタップするまでくり返し再生が続けます。

メロディーとコード情報が書かれた譜面(リードシート)をインポートすると、どのようなことができますか？

メロディーとコード情報が書かれた譜面(リ

ードシート)をスマートピアニストにインポートして再生すると、メロディーだけでなくコードに合った伴奏(和音)も鳴ります。ストリームライトやガイドランプのある楽器では、その光がコード(和音)の演奏をサポートしてくれます。スマートピアニストにPDF楽譜をインポートして曲を再生する方法は「[PDF楽譜を表示して曲を再生する](#)」をご覧ください。

オンラインストレージとは？

「インターネット上でファイル(データ)を保存、共有する場所」のことです。iCloud Driveなどが利用できます。

スマートピアニストでは、録音した演奏データをオンラインストレージにエクスポート(書き出し)したり、データをオンラインストレージからインポート(取り込み)したりできます。また、スマートピアニストのさまざまな設定データや、録音したソングをまとめてオンラインストレージにバックアップできます。

オンラインストレージについては、ご利用になるサービスのマニュアルをご確認ください。

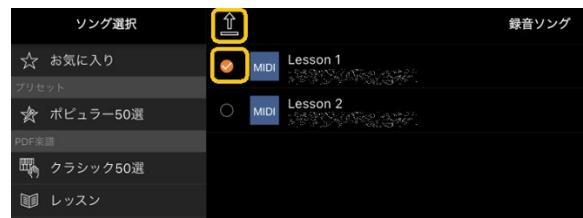
録音した演奏データを取り出すには？

録音データは、[オンラインストレージ](#)にエクスポート(書き出し)したり、メールなどで共有したりすることで、ほかのスマートデバイスやコンピューターでも活用できます。

1. ソング選択画面で[録音ソング]を選び、 (エクスポート)をタップします。



2. エクスポートしたいソングにチェックマークを付け、 (エクスポート)をタップします。



3. データの書き出し先となるオンラインストレージや、データを共有するメールアプリを選択し、ソングをエクスポートします。操作方法については、お使いのスマートデバイスのマニュアルをご確認ください。

4. エクスポートが完了すると、ソング選択画面に戻ります。

コンピューターなどにある曲や楽譜のデータをスマートピアニストに取り込むには？

取り込みたい曲のデータ(MIDI、WAV、AAC、MP3)や楽譜データ(PDF)を[オンラインストレージ](#)に置き、スマートピアニストにインポート(取り込み)します。

* 接続している楽器によっては、MIDIデータや楽譜データ(PDF)を取り込んで再生できない場合があります。

1. ソング選択画面で[インポートソング]を選び、 (インポート)をタップします。



2. 取り込みたいデータが置いてあるオンラインストレージを選び、インポートしたいデータをタップします。操作方法については、お使いのスマートデバイスのマニュアルをご確認ください。
3. 確認の画面が表示されたら、[インポート]をタップします。インポートしたデータが、手順1の画面に表示されます。

曲データの再生方法は、「[ソング\(再生する\)](#)」をご覧ください。楽譜データ(PDF)については「[PDF 楽譜を表示して曲を再生する](#)」をご覧ください。

ミュージックライブラリーで表示されない、または選べない曲がある。

対応しているオーディオデータは下記フォーマットの WAV、AAC、MP3 データです。

- **WAV**
サンプリングレート: 44.1 kHz、モノ / ステレオ
量子化ビット数: 8-bit または 16-bit
- **AAC、MP3**
サンプリングレート: 44.1 kHz、モノ / ステレオ
ビットレート: モノ = 32 kbps ~ 160 kbps、ステレオ = 64 kbps ~ 320 kbps (可変ビットレートにも対応)

また、音楽ストリーミングサービスの曲、ミュージックアプリ以外で取り込んだ曲、DRM(デジタル著作権管理)により制限された曲は

選べません。着信音、アラーム音なども選べません。

オーディオソングを選んだときに表示されるコード譜が正しくない。

オーディオソングを選曲すると、コードが自動で解析され、コード譜や譜面が表示されます。コードは高い精度で解析されますが、原曲と異なる場合があります。また、スマートデバイスや OS によっては解析の結果が変わる場合があります。

コード譜を変更する場合は、編集したいコードをタップしてお好みのコードを選んでください。



オーディオソングのメロディーを消音するには？

ステレオ音源のオーディオソングの多くは、メロディーパート(主に歌声パート)がセンターから聞こえるように作られています。メロディーキャンセル機能を使って、センターの音量を小さくし、メロディーパートを聞こえにくくできます。

1. オーディオソングを選び、ソング画面を表示させます。ソングの選び方は「[ソング\(再生する\)](#)」をご覧ください。
2. ソング設定画面の[アレンジ] → [メロディーキャンセル]をオンにします。



- [完了]をタップしてソング画面に戻り、ソングを再生します。メロディーパートの音量が小さくなつたことを確認します。

メロディー以外のパートの譜面を表示させるには？

内蔵曲は、通常、メロディーパート(右手/左手)がチャンネル 1/2 に割り当てられています。この割り当てを変えることで、表示される譜面が変わります。(PDF 楽譜を除く。)

- ソングを選び、ソング設定画面を表示させます。



- ソング設定画面の[再生]→[MIDI パートチャンネル]の設定を変更します。
[自動設定]をオフにし、[右手]と[左手]に割り当てるチャンネルを変更します。



一部の楽器では、ユーティリティ画面の[譜面]でこの設定をします。

- ソング画面に戻ると、大譜表の上段に[右

手]に割り当てたチャンネルが、下段に[左手]に割り当てたチャンネルが表示されます。



オーディオトゥースコアとは？

スマートデバイス内にあるオーディオソングの伴奏譜を自動で作成する機能です。オーディオソングを選択するだけで、その曲のコード進行が解析され、さまざまなパターンの伴奏譜(ピアノパート譜)が自動的に作成されます。1つの曲で伴奏譜は 40 種類作成され、ジャンルアレンジや演奏レベルに合った譜面を選んで楽しめます。



* メロディー譜は作成できません。

オーディオトゥースコアの使い方は？

接続中の楽器がオーディオトゥースコア機能を搭載している場合のみ使用できます。

- ソング選択画面で、オーディオソングをタップします。



スマートデバイス内にあるオーディオ曲は[ミュージックライブラリー]から選べます。

- ソング画面に、作成された伴奏譜が表示されます。



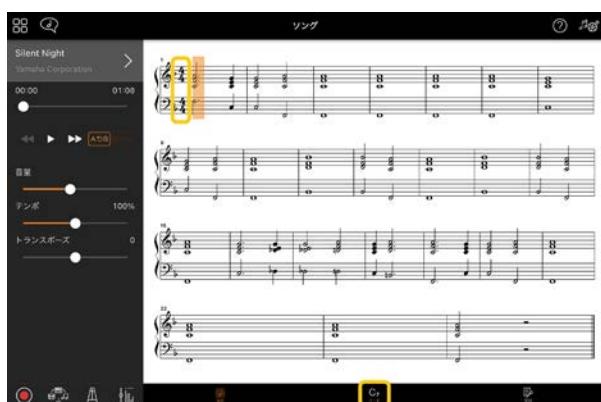
ソング設定画面の[アレンジ]→[伴奏譜のパターン]で、お好みの伴奏譜を選べます。

オーディオトゥースコアで作成された譜面を修正するには？

オーディオトゥースコアで作成される伴奏譜は、基本的に4分の4拍子です。そのため、4分の3拍子の曲では、正しい譜面が表示されない場合があります。

ここでは「Silent Night」(4分の3拍子)を例に、拍子の修正のしかたを説明します。

- 伴奏譜に記載されている拍子を確認し、下部にある[コード]をタップします。



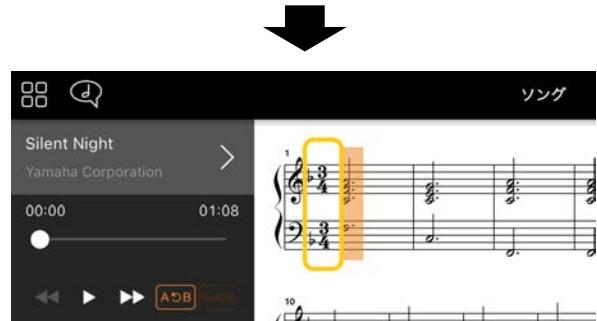
- コード譜上部の (解析)をタップします。



- 「拍子」を4から3へ変更し、[再解析]をタップします。



- コード譜が表示されたら、下部にある[譜面]をタップして譜面表示に戻ります。



4分の3拍子に修正された伴奏譜が表示されます。

レジストレーションメモリーを呼び出すと、予期しない設定に変更されてしまう。

レジストレーションメモリーを呼び出すと、多くのパラメーターが保存したときの状態に設定されます。このため、意図せず保存した

パラメーターも呼び出され、予期しない設定に変わってしまったと感じる場合があります。レジストレーションメモリーの画面で、①(情報)をタップして呼び出す項目を設定できます。

レジストレーションメモリーの読み込み中に表示がちらつく。

異常ではありません。レジストレーションメモリーを呼び出すと、多数のパラメーターを順に設定していくため、その途中経過が表示されることがあります。

Bluetooth オーディオ /Bluetooth MIDI とは？

Bluetooth 対応の機器をつないで、オーディオデータや MIDI データの通信をする機能です。

楽器とスマートデバイスを Bluetooth で接続してスマートピアニストを使うには、楽器に Bluetooth MIDI 機能が搭載されていて、楽器とスマートデバイス双方の Bluetooth 機能がオンになっている必要があります。オーディオデータの通信も必要な場合は、先に Bluetooth オーディオで接続してから、Bluetooth MIDI で接続してください。

• Bluetooth オーディオ

スマートデバイスから楽器へ、Bluetooth により オーディオデータ を送信します。

Bluetooth オーディオで接続したスマートデバイスでオーディオデータを再生すると、楽器のスピーカーから音が鳴ります。Bluetooth オーディオ機能を使うには、楽器を操作してスマートデバイスをペアリングする必要があります。ペアリングの方法については、楽器の取扱説明書をご確認ください。なお、楽器からスマートデバイスにオーディオデータを送信することはできないため、ス

マートピアニストではオーディオ録音することはできません。オーディオ録音するには、USB ケーブルまたは無線 LAN で接続してください。

• Bluetooth MIDI

スマートデバイスと楽器の間で、Bluetooth により、MIDI データ(演奏情報)を送受信します。Bluetooth MIDI に対応の楽器では、スマートピアニストを起動したときに表示されるメッセージにしたがって操作をすると、接続が完了します。もし何らかの理由で接続ができなかった場合は、接続ウィザードに従って操作してください。

アプリ使用中に楽器とスマートデバイスをつなぐケーブルを抜いたり、Wi-Fi や Bluetooth をオフにしたりするとどうなる？

アプリと楽器の接続が切断されることがあります。接続が切断されたら、楽器の電源を入れ直してください。その後、楽器とスマートデバイスを再接続してください。

楽器とスマートデバイスをケーブルで接続しているときに、接続が切れてしまう。

ケーブルやアダプターが、しっかりと接続されているか、今一度ご確認ください。

Bluetooth で接続してアプリを使用中、通信に失敗したり接続が切れたりする。

スマートデバイスや Bluetooth の仕様、またはお使いの無線の通信環境によるものです。下記の対処方法をお試しください。

• スマートデバイスの設定画面で Bluetooth

をいったんオフにしてから、再度オンにしてください。また、接続先リストに「楽器のモデル名_MIDI」がある場合は削除してください。

- ・スマートピアニストを終了して、楽器の電源を入れ直してください。
- ・電磁波を発する機器（電子レンジ、無線機器など）の近くで使用しないでください。

以上の対処をしてから、スマートピアニストを再起動し、接続ウィザードを使って再接続してください。それでも問題が改善しない場合は、USB ケーブルを使って接続してください。

楽器と Bluetooth で接続中、スマートデバイス内の曲を再生すると、楽器ではなくスマートデバイスから音が鳴る。

スマートピアニストの接続ウィザードでは Bluetooth MIDI での接続しかできません。そのため、スマートデバイス内の曲(オーディオソング)を再生すると、楽器ではなくスマートデバイスから音が鳴ります。楽器本体が Bluetooth オーディオに対応している場合は、Bluetooth オーディオでも接続することにより、スマートデバイスのオーディオソングを楽器のスピーカーで再生できます。Bluetooth オーディオでの接続方法は楽器の取扱説明書をご覧ください。楽器が Bluetooth オーディオに対応していない場合は、ケーブルで接続すると、スマートデバイスのオーディオソングを楽器のスピーカーで再生できます。接続方法は「[楽器と接続する](#)」でご確認ください。

ボイス、スタイル、ソングの鳴り方がいつもと違う。

エフェクトの中には、ボイス、スタイル、ソ

ングに共通して有効になるものがあります。そのため、最後に選択したエフェクトが有効になります。たとえば、ソングを選ぶと、ボイスの鳴り方が変わってしまう場合があります。その場合は、再度ボイスを選ぶと元に戻ります。

パラメーターを初期値に戻すには？

スライダーやノブをダブルタップすると初期値に戻せます。

すべてのパラメーターを初期化したい場合は、ユーティリティー画面の[システム]→[初期化]を実行してください。

ほかのアプリと同時に使える？

スマートピアニストとほかのアプリを同時に使うことはできません。スマートピアニストと楽器を接続したまま、ほかのアプリを操作すると、接続が解除されます。

アプリが起動できない。

スマートデバイスに十分な空き容量がないと、アプリを起動できません。不要なアプリやデータ(写真など)を削除するなど、空き容量を増やしてください。

「デバイスに十分な空き容量がないと、アプリの動作が不安定になることがあります。」と表示された。

スマートデバイスから不要なアプリやデータ(写真など)を削除するなど、空き容量を増やしてください。

「予期しないエラーが発生しました。」と表示された。

アプリを再起動してください。アプリが正常に動作していません。

ほかのスマートデバイスに設定データを移行するには？

オンラインストレージを使って、スマートピアニストの設定データをほかのスマートデバイスに移行できます。

1. 使用中のスマートデバイスで、ユーティリティー画面の[システム]→[バックアップ]をタップし、オンラインストレージにバックアップファイル（ファイル拡張子：.bup）をアップロードします。
2. データの移行先となるスマートデバイスでスマートピアニストを起動し、ユーティリティー画面の[システム]→[リストア]をタップし、オンラインストレージからバックアップファイルを取り込みます。